

## 基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OAD5001	経営基礎	1	1.0	1	春A	火7,8		立本 博文, 佐藤 秀典, 伴 正隆	経営学とマーケティングの全体像を理論と実務を関連付けながら示した上で、経営戦略論と経営組織論、そしてマーケティングの基礎概念と基本枠組みについて講義形式で概説する。	01KA051と同一。
OAD5002	会計基礎	1	1.0	1	春A	金7,8		中村 亮介	簿記と会計の基本について講義する。具体的には、日常の経済活動を会計的に記録することから始まり、決算を行って貸借対照表と損益計算書を作成する一連の作業の意義が理解できることを目標とする。そして最後に、財務諸表をどのような形で活かすか(財務諸表分析)を解説・実践する。これによって、ビジネスの中で簿記・会計がどのように扱われているのかを学習する。なお、講義内では、演習問題を配布し、各論点の解説を行った後、その問題を解いてもらうことで理解を深めてもらう。また、講義の最終日に理解度を確認するテストの実施を予定している。	Medium of instruction is Japanese. Please see the Japanese syllabus for the details. 01KA052と同一。 オンライン(同時双方向型)
OADM001	ビジネス数理	1	1.0	1	春A	木7,8		牧本 直樹	ビジネス上の具体的な課題を数理的な問題として定式化して分析する数理的モデリングの考え方、ならびに、ビジネス科学を学ぶ過程で必要となる数理的な基礎知識を修得することを目標とする。具体的な内容として、論理、集合、ベクトルと行列、線形代数、関数(1次関数、べき関数、対数関数、指数関数、多変数関数など)、微分・積分などを解説する。また、ビジネスのさまざまな場面で現れる問題を例として取り上げる。授業は講義形式で行う。	01KA053と同一。 対面
OADM002	ビジネスと情報	1	1.0	1	春A	土3,4		津田 和彦, 倉橋 節也, 吉田 光男	今日のビジネスシーンにおいて、情報や情報技術がどのように関わって来るか、情報や情報技術がビジネスにどのような形でプラスやマイナスの影響を与え得るか、ビジネス側から情報や情報技術に対してどのような知識を持ち、どのような姿勢でアプローチすべきかについて、さまざまな切り口から取り上げる。授業は講義形式で行う。	01KA054と同一。
OADM003	プログラミング基礎	1	1.0	1	春A	水7,8		津田 和彦	近年、多くの情報が散乱しており、これらの情報を分析することで有益な情報を抽出するという取り組みが盛んに行われている。しかし、散乱している情報を分析に適した形式に変換するには多大な労力が必要である。この労力を軽減するためにはプログラムを活用することは不可欠である。本講義では、プログラミングの初心者や、データの整理や書き変換が出来るプログラムを開発できるようにすることを目的に、実習形式で進める。具体的には、プログラミング言語Cを用いて、コンピュータの基本的な動作やメモリ管理を体験する。さらには、コンピュータアルゴリズムの基本を学習する。	01KA055と同一。 対面

## 専門科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OAA1501	トップレクチャーI	1	1.0	1・2					民間企業、教育・研究機関、官公庁、国際機関等のトップ・マネジャーを講師に迎えて、現実の企業や社会システムにおける諸問題の解決方法やトップマネジメント戦略の構築並びに実践方法などについての講義を行う。 他授業や研究活動において修得した学術的な知識や知見と、本講義で提示されるトップ・マネジャーの現場からの知識や経験を高度に融合させることで、自らの多角的な思考能力や問題発見・解決能力を涵養することが期待される。	非常勤講師。 西暦偶数年度開講。 01KA101と同一。
OAA1502	トップレクチャーII	1	1.0	1・2	夏季休業中	集中			トップレクチャーIに続いて、民間企業、教育・研究機関、官公庁、国際機関等のトップ・マネジャーを講師に迎えて、現実の企業や社会システムにおける諸問題の解決方法やトップマネジメント戦略の構築並びに実践方法などについての講義を行う。 他授業や研究活動において修得した学術的な知識や知見と、本講義で提示されるトップ・マネジャーの現場からの知識や経験を高度に融合させることで、自らの多角的な思考能力や問題発見・解決能力を涵養することが期待される。  詳細確定次第、在学生向けサイト( <a href="https://www.office.otsuka.tsukuba.ac.jp/stu_m/">https://www.office.otsuka.tsukuba.ac.jp/stu_m/</a> )でお知らせします。	非常勤講師。 西暦奇数年度開講。 01KA102と同一。

OADM101	経営戦略論	1	1.0	1・2	春C	火7,8	立本 博文	経営戦略の概念を複数の視座から理解する。その後、環境変化と組織の適合をはかる戦略立案、資源ベース観点からの戦略立案、市場の競争構造を意識した戦略立案を古典的な分析ツールとともに理解する。古典的な分析ツールには、SWOT分析、RBVブレイムワーク、ファイブフォース分析、PPM分析を含む。さらに、企業競争上、重要な位置を占めるイノベーションについて幾つかのキー概念(プロダクト・イノベーションとプロセス・イノベーション、アーキテクチャー・イノベーション、ディスレプティブイノベーション等のイノベーションダイナミクス)を学ぶ。授業は講義形式で行う。	01KA423と同一。
OADM102	経営組織論	1	1.0	1・2	春B	火7,8	佐藤 秀典	我々の生活は組織抜きでは考えられないほど、現代社会における組織の影響は大きい。この講義では組織のマネジメントに関するさまざまな理論を取り上げ、それらの理論を実際の企業に当てはめてどのようなことが見えてくるのかを検討する。本講義ではそれにより、自ら組織を分析しようとするときにそれぞれの理論が組織のどのような面を理解するのに有効であり、どのような面で限界があるのかを理解して活用できるようになることを目的とする。	01KA424と同一。
OADM103	技術経営論	1	1.0	2	春B	火7,8	立本 博文	技術経営論は、製造業の国際競争力の低下を契機に、現実の要請から生まれた学問領域である。その内容は、製造業における多様な経営上の問題に対して、実務的・現実的な解法を探ることにある。競争力獲得のためには、どのような戦略(もしくは戦略的思考)が必要なのかを学習する。本講義では、主にイノベーション、オープン化・標準化、デジタル化、グローバル化とビジネスモデルについて全般的に学ぶ。さらに近年注目されているデータを使った経営戦略の手法についても学ぶ。	01KA428と同一。 オンライン(同時双方向型)
OADM104	組織変革	1	1.0	1・2	秋B	火7,8	佐藤 秀典	変化する環境に対応するため、組織も変化するものが求められる。しかし、組織には変化を妨げる様々な要因が存在する。また、変化を意識しすぎるあまり、自らの強みを見失ってしまうことも少なくない。本講義では、組織が変化しなければいけない理由、変革の妨げとなるものは何か、何を覚えて何を覚えるべきではないのか、変革における経営者の役割はなにかといった観点から組織変革について検討し、組織変革を様々な面から理解することを目的とする。	01KA506と同一。
OADM105	消費者行動	1	1.0	1・2	春B	水7,8	西尾 チヅル	本講義では、マーケティング戦略上の諸課題との関連性を意識しつつ、マーケティング対象となる市場を構成する消費者の嗜好構造や行動を分析するための枠組み、方法に関する代表的な理論やモデルを概説する。具体的には、消費者行動を規定する外部環境要因、個人差要因、認知・態度・行動などの購買意思決定プロセスなどに関する研究成果を検討し、消費者行動の測定方法や分析アプローチを学習すると共に、事例などを通じて、企業の具体的なマーケティング戦略への展開方法を議論する。	01KA420と同一。
OADM106	マーケティングリサーチ	1	1.0	1・2	春C	水7,8	佐藤 忠彦	マーケティング意思決定における諸問題を、市場や顧客に関するデータと論理に基づいて科学的に捉えるための基本的な考え方と具体的な方法を概説する。講義では、市場や顧客データの収集や分析、伝達といったマーケティングリサーチ技法について説明する。本講義のキーワードは、消費者態度、行動、データの取得と整理、質問紙の作成、測定尺度、記述統計、多変量解析(主成分分析、因子分析、クラスター分析、回帰分析)である。	01KA422と同一。 Medium of instruction is Japanese. Please see the Japanese syllabus for the details.
OADM107	マーケティングサイエンス	1	1.0	1・2	秋A	火7,8	伴 正隆	本講義では、MBA学生として学んでおくべき、マーケティングに典型的な意思決定問題について概説しつつ、各問題に代表的な分析方法あるいはマーケティングモデルを紹介する。microsoft excel やフリーの統計ソフトRを使用して分析例を示すとともに、マーケティング戦略に活用するための考え方を学習する。	2023年度はオンラインのみにて実施します。 01KA505と同一。 オンライン(同時双方向型)
OADM108	環境マーケティング	1	1.0	2	春A	金7,8	西尾 チヅル	地球環境問題の台頭に伴って、マーケティングの概念や方向性も変化している。本講義では、地球環境問題とマーケティングを取り上げ、地球環境問題に対する国際動向、法規制や行政の動向、消費者の行動特性とその動向、企業の環境マネジメントと環境マーケティングの実態等を、関連する研究成果や企業事例を取り上げながら概説する。その上で、地球環境保全や資源循環を実現するためのマーケティングのあり方と具体的な展開方法を議論する。	01KA421と同一。

OADM109	マーケティングエンジニアリング	1	1.0	2	春A	水7,8	佐藤 忠彦	本講義では、マーケティング意思決定における諸問題を、市場や顧客に関するデータを用いて科学的に捉えるための技術について学ぶ。特に、統計的手法を用いたマーケティングデータの解析法を解説し、その内容に関して実際に演習してもらうことで、マーケティングにおけるデータ分析の実感を体得してもらう。具体的には、市場反応分析(集計型、非集計型)、市場の規定、セグメンテーション、顧客管理、製品開発といった実際のマーケティングに資する解析法を実際に学習して、演習してもらう。	01KA109と同一。 Medium of instruction is Japanese. Please see the Japanese syllabus for the details.
OADM110	インベストメントサイエンス	1	1.0	1・2	夏季休業中	集中	山田 雄二	ポートフォリオ理論は、投資の意思決定をする上で重要な役割を果たす。本講義では、ポートフォリオ理論の基礎となる平均分散アプローチ、および Markowitz モデルとその周辺の数学について解説する。まず、ポートフォリオ最適化問題を収益率の平均と分散を用いて定式化し、その解法を示す。さらに、資本市場価格付けモデル(CAPM)や効用関数論、および投資家の期待効用を導入し、投資意思決定に必要なツールの基礎を習得する。また、講義内容について理解を深めるために計算機演習を実施する。	01KA425と同一。
OADM111	ファイナンス工学	1	1.0	1・2	秋A	金7,8	山田 雄二	デリバティブ(金融派生証券)の価格付けとヘッジ、およびその周辺理論は、ファイナンス工学分野の中心的トピックであり、金融先物・先渡やオプションはもとより、近年話題となっているリアルオプションや天候デリバティブ評価の基礎をなしている。本講義では、デリバティブ取引の概要およびデリバティブ価格付けの基本概念を導入し、オプションを用いた取引、無裁定価格理論、オプションヘッジ戦略について解説を行う。さらに、これら理論や手法について、実際に計算機を使ってシミュレーションを行う。	01KA426と同一。
OADM112	財務会計	1	1.0	1・2	秋A	木7,8	中村 亮介	近年、国際的な企業会計制度の変革はめざましい速度で進行している。この流れで、わが国の企業会計もその根幹から変わろうとしている。本講義は、このような状況のもとで、財務会計の個別論点(金融商品会計、リース会計、税効果会計、連結会計など)について学習し、企業の経営成績・財政状態およびキャッシュ・フローの状況を表す財務諸表の何がかわって、また何がかわっていないのかを学ぶことを目的とする。なお、講義内では、演習問題を配布し、各論点の解説を行った後、その問題を解いてもらうことで理解を深めてもらう。また、最終回に理解度を確認するテストを予定している。	Medium of instruction is Japanese. Please see the Japanese syllabus for the details. 01KA427と同一。 オンライン(同時双方向型)
OADM113	会計情報分析	1	1.0	1・2	秋B	土3,4	中村 亮介	近年のわが国では、企業価値を意識した経営を求められることが多くなってきている。そこで本講義では、どのような原理で企業価値が計算されているのかを確認し、その企業価値を戦略的に高めるにはどのようにしたらよいかを、主に財務会計の視点から議論する。具体的には、企業価値評価に関する講義を行った後、学生同士でチームを組んでもらい、特定の企業が企業価値を高めるための施策についてプレゼンテーションを行ってもらう。	12時20分から開始します。 01KA440と同一。 対面(オンライン併用型)
OADM114	データ解析I	1	1.0	1・2	春B	木7,8	尾碕 幸謙	データ解析に必要な統計知識・技術について初歩から講義する。具体的には、代表値、散布度、共分散、相関、統計的仮説検定、単回帰分析について学ぶ。統計学は数学がベースになっている学問であるが、授業中の解説は数学ベースというよりは、分析手法についてイメージができることや、使いどころが理解できることを目指し、実例を交えながら行う。データ解析の課題に取り組むことで、理解の定着を図る。なお、扱う分析ツールはエクセルとする。	経営学学位プログラム博士前期課程および博士後期課程の学生のみ履修可能。他所属の学生は聴講であれば可。 01KA431と同一。 正規生はハイブリッド(対面推奨)、科目等履修生はオンラインのみ
OADM115	データ解析II	1	1.0	1・2	春C	木7,8	尾碕 幸謙	データ解析Iに引き続き、多変量解析を中心とした講義を行う。具体的には、主成分分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析等について学ぶ。データ解析Iと同じように、分析手法についてイメージができることや、使いどころが理解できることを目指し、実例を交えながら講義を行う。講義だけではなく、多変量解析の課題に取り組むことで理解の定着を図る。なお、扱う分析ツールはRとする。Rの基本的な操作については講義中に説明する。	経営学学位プログラム博士前期課程および博士後期課程の学生のみ履修可能。他所属の学生は聴講であれば可。 01KA432と同一。

OADM116	応用統計	1	1.0	1・2	秋C	火7,8	伴 正隆	本講義では、中級以上の統計手法の中からいくつかのトピックを選び、実際のデータ解析事例に触れながら講義する。トピックの例としては、回帰分析と一般化線形モデル、ベイズ統計、欠測データ解析、傾向スコア分析などが挙げられる。各分析手法の理論面の理解だけでなく、何らかのデータに手法を適用してみる解析事例の紹介によって、手法の特性や結果の解釈の仕方、あるいはそもそもどのようなデータに適用されるかといったことに関する知識の獲得を目指す。	2023年度はオンラインのみで実施します。 01KA442と同一。
OADM117	共分散構造分析	1	1.0	1・2	秋B	木7,8	尾碕 幸謙	社会科学のデータ解析で用いられることが多い共分散構造分析について講義を行う。共分散構造分析によって適切にデータ解析を行うためには、単に分析ができるだけでなく、ある程度の仕組みの理解が必要となる。本講義では、手法としては確認的因子分析、探索的因子分析、パス解析、潜在変数間のパス解析について講義する。理論面に関しては、識別、自由度に特に焦点をあてて説明する。各手法を実行するためのソフトウェアを用い、課題に取り組むことで、共分散構造分析の理論と応用の両面の理解を目標とした講義を行う。	経営学学位プログラム博士前期課程および博士後期課程の学生のみ履修可能。他所属の学生は聴講であれば可。 01KA434と同一。
OADM118	計量経済学	1	1.0	1・2	秋A	水7,8	牧本 直樹	本講義では、経営、マーケティング、金融などの分野におけるさまざまなビジネスデータを分析するための中心的手法である回帰モデルの基礎理論、推定手法、仮説検定などを、具体的な分析例を通して修得することを目標とする。最初にモデルや推定手法を理解するための必要な確率・統計の知識を解説した上で、重回帰モデル、残差の系列相関や不均一分散の問題と対処、一般化最小二乗法、同時方程式モデルと操作変数法、パネル回帰などを学ぶ。また、情報量規準によるモデル選択や、符号条件や有意性にもとづく結果の解釈なども説明する。	01KA433と同一。 オンライン(対面併用型)
OADM119	時系列分析	1	1.0	2	春B	水7,8	牧本 直樹, 佐藤 忠彦	経営、マーケティング、金融ではさまざまな時系列データを取り扱う。本講義では、具体的な時系列データの分析例を通して、時系列に固有の性質を理解した上で、さまざまな時系列データを分析するための知識と技術を修得することを目標とする。	01KA196と同一。 オンライン(同時双方向型)
OADM120	最適化モデル	1	1.0	1・2	春B	金7,8	猿渡 康文	我々は日常的にさまざまな場面で意思決定を行っている。ランチに行くレストランの選択から、投資先と投資金額の決定まで、例を挙げればきりが無い。特に、ビジネス上の意思決定においては、科学的な評価に基づいた代替案の決定が期待される。本講義では、我々が直面する意思決定問題を科学的に捉え、解決する「見る目」・「態度」を養うことを目的として、問題を解決するための「科学的な意思決定方法」を修得する。本講義では、科学的な意思決定方法として、数理最適化に焦点を当てる。数理最適化は、意思決定主体が有する効用が最大化する代替案を選択するといった自然な枠組みを、数理的なモデルとして表現し、その解決案を導出する数理的な方法論である。本講義では、その基本的なモデルである線形計画モデルを中心に、数理的なものの方や計画技法を、計算機ソフトウェアを利用しながら体得する。	01KA429と同一。 対面(オンライン併用型) 第1回目と第5回目は対面、第2回目～第4回目までは対面(オンライン併用型)で実施
OADM121	ロジスティクスとサプライチェーン	1	1.0	1・2	秋B	金7,8	猿渡 康文	情報通信技術が発展し「情報」の流れが高度化した現代社会においても、「もの」の流れの効率化・高度化に関する興味関心は尽きない。本講義では、「もの」の流れと保管、サービス、加えて関連する情報を計画、実施およびコントロールする過程であるロジスティクスを、上流から下流までのサプライチェーンを構成する企業とその間の活動を統合したシステムとして捉え、システムに内包されるさまざまな意思決定問題の数理的なモデル化と解決方法を修得することを目的とする。具体的には、在庫と発注問題、スケジューリング問題、配送経路問題や施設配置問題を取り上げ、実際の事例とともに、その背後にある理論、特に、ネットワーク理論や組合せ最適化理論について講義する。	01KA430と同一。 対面(オンライン併用型)
OADM122	オペレーションズ・リサーチ	1	1.0	1・2	秋C	水7,8	牧本 直樹	本講義では、オペレーションズ・リサーチの手法の中の確率モデルの分析とその応用例を通して、現実の問題に対して科学的なアプローチでよりよい解を目指すオペレーションズ・リサーチの考え方や活用方法を理解することを目標とする。手法の例としては、モンテカルロシミュレーション、マルコフモデル、待ち行列、最適意思決定などを取り上げる。また、ビジネス課題を具体的に分析したり解決したりするための参考となるよう事例研究論文の解説も行う。	01KA443と同一。 オンライン(同時双方向型)

OADM123	人工知能とビジネス情報分析	1	1.0	1・2	秋B	水7,8	倉橋 節也	ビジネスでの課題をデータから分析・解決する新しい手法として、学習理論や最適化などの人工知能の技術が注目されている。ビジネス情報分析に人工知能技術を適用することで、様々な可能性が開ける。本講義では、人間の知的行動を基礎とした人工知能を用い、現実の問題解決に適用するためのビジネス情報分析手法の基礎理論・応用手法を学ぶ。プログラミングや統計、数理モデルの経験は問わない。具体的な内容としては、探索問題、パターン認識、学習と推論、推薦システム、進化計算や神経回路網を用いた最適化技術などの基礎を学ぶ。	01KA435と同一。
OADM126	テキストマイニング	1	1.0	1・2	春C	金7,8	津田 和彦	ブログやツイッター、フェイスブックなどのソーシャルネットワークサービスが発達により、一般の方が情報発信することが一般的になってきた。これらの情報の多くはテキストデータである。このテキストを分析して、製品やサービスや有益な情報を抽出しようとする取り組みが始まっている。そこで本講義では、テキストデータの分析方法など、テキストマイニングの基本的なアルゴリズムを紹介すると共に、テキストマイニングツールを用いて、一般の方が発したロコミ情報を分析して有益な情報を抽出する過程を実習形式で体験する。	01KA438と同一。 オンライン(対面併用型)
OADM127	社会シミュレーション	1	1.0	1・2	春C	土5,6	倉橋 節也	新しいシステム科学として、マルチエージェント技術を用いたシミュレーション手法が注目を浴びている。近年、この手法を用いて、様々な経営課題や社会問題に適用し、多くの成果を上げてきている。本講義では、自律性と相互作用を考慮するエージェントモデルの基礎から、経営戦略モデルや市場制度設計などへの応用までを学ぶ。また、人とエージェントが参加するゲーミングシミュレーションへの発展も行う。演習を通し、実際にモデルを作成し動かすことで、実践的な経営シミュレーション手法を習得することを目標とする。履修にあたって、初歩的なプログラムが必要になるが、特に高度なプログラミングの経験は問わない。	01KA439と同一。 対面
OADM128	ビジネスゲーム	4	1.0	1	春C	土3,4	倉橋 節也, 猿渡康文, 中村 亮介	企業経営を、企業戦略、調達、生産、サプライチェーン、マーケティング、会計等の諸機能分野から構成されるシステムとして理解し、情報の収集・分析を行いながら、総合的視点から経営の意思決定を論理的に行う能力を修得する。演習では、ゲーミングの手法を用い、競争的な市場の中で、各チームが経営意思決定をアクティブに学習する	01KA103と同一。
OADM133	計算社会科学	1	1.0	1・2	春B	土3,4	吉田 光男	計算社会科学とは、人間の相互関係によって成り立つ社会をデータに基づいて解明していく学問であり、ビッグデータやコンピュータの活用が可能にするデジタル時代の社会科学です。本科目では、Web調査やネットワーク分析など、社会データの収集や分析・活用にいられる様々な手法を俯瞰的に理解し、研究やビジネスへの活用事例について学びます。また、人工知能やデータがもたらす倫理上の問題についての理解も深めます。	01KA448と同一。 正規生はハイブリッド(対面推奨)、科目等履修生は対面のみ
OADM301	経営システム科学論講I	2	1.0	1・2	春ABC	応談	経営学学位プログラム(博士前期課程)各教員	春学期に開講し、経営システム科学の先端的な理論や分析手法、事例に関する著書および論文等を輪読する。	01KA355と同一。
OADM302	経営システム科学論講II	2	1.0	1・2	秋ABC	応談	経営学学位プログラム(博士前期課程)各教員	秋学期に開講し、経営システム科学の先端的な理論や分析手法、事例に関する著書および論文等を輪読する。	01KA356と同一。
OADM303	経営システム科学論講III	2	1.0	1・2	春ABC	応談	経営学学位プログラム(博士前期課程)各教員	春学期に開講し、経営システム科学の先端的な理論や分析手法、事例に関する著書および論文等を輪読する。	01KA357と同一。
OADM304	経営システム科学論講IV	2	1.0	1・2	秋ABC	応談	経営学学位プログラム(博士前期課程)各教員	秋学期に開講し、経営システム科学の先端的な理論や分析手法、事例に関する著書および論文等を輪読する。	01KA358と同一。

研究科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OADM201	経営システム科学研究・I-I		2	1.0	1	春AB	土5	倉橋 節也, 佐藤 忠彦, 佐藤 秀典, 中村 亮介, 山田 雄二, 吉田 光男	1年次の春学期に行われるセミナー形式の授業である。学術研究とは何かといったビジネス実務的な考え方の違い、サーベイの方法、専門外の聴衆に対する分かり易いプレゼンテーションなど、研究活動を遂行するうえで必須となる研究方法の基礎を学ぶ。さらに、学生と教員のディスカッションによって各自の研究計画を学術的に深化させるとともに、全くバックグラウンドの異なる聴衆からのコメントによって多面的に計画の再検討を行うことが期待される。	

OADM202	経営システム科学研究・I-II	2	1.0	1	春秋A	随時	経営学学位プログラム（博士前期課程）各教員	1年次の春秋学期に行われるセミナー形式の授業で、指導教員の下で、各自の研究企画の具体化や、そのための作業の進め方などの習得を目標とする。
OADM203	経営システム科学研究・I-III	2	1.0	1	秋BC	随時	経営学学位プログラム（博士前期課程）各教員	1年次の秋学期に行われるセミナー形式の授業で、指導教員の下で、研究計画発表に向けての文献の調査・研究方法などの習得を目標とする。
OADM204	経営システム科学研究・II-I	2	1.0	2	春AB	随時	経営学学位プログラム（博士前期課程）各教員	2年次の春学期に行われるセミナー形式の授業で、指導教員の下で、中間発表会に向けた準備のために、各自の研究計画に合わせた修士論文の草稿の作成方法の習得を目標とする。
OADM205	経営システム科学研究・II-II	2	1.0	2	春秋A	随時	経営学学位プログラム（博士前期課程）各教員	2年次の春秋学期に行われるセミナー形式の授業で、指導教員の下で、ドラフト発表に向けて、修士論文研究で得られた結果の整理と考察の方法の習得を目標とする。
OADM206	経営システム科学研究・II-III	2	1.0	2	秋BC	随時	経営学学位プログラム（博士前期課程）各教員	2年次の秋学期に行われるセミナー形式の授業で、指導教員の下で、修士論文の最終原稿の完成に向けて精度の向上を図るとともに、修士論文として適切な文章表現や最終審査に臨むためのプレゼンテーション方法の習得を目標とする。
OADM211	経営システム科学特別研究・I-I	2	1.0	2	春AB	随時	経営学学位プログラム（博士前期課程）各教員	春ABモジュールに開講する科目で、休学などの理由で卒業年限を延長した場合の3回目の春ABモジュールを迎えた学生を対象とする科目であり、経営システム科学研究・I-I、II-Iの単位を既に修得している学生に対して、指導教員の下で、各自の研究テーマに関連する学習を行う。
OADM212	経営システム科学特別研究・I-II	2	1.0	2	春秋A	随時	経営学学位プログラム（博士前期課程）各教員	春秋Aモジュールに開講する科目で、休学などの理由で卒業年限を延長した場合の3回目の春秋Aモジュールを迎えた学生を対象とする科目であり、経営システム科学研究・I-II、II-IIを既に履修している学生に対して、指導教員の下で、各自の研究テーマに関連する学習を行う。
OADM213	経営システム科学特別研究・I-III	2	1.0	2	秋BC	随時	経営学学位プログラム（博士前期課程）各教員	秋BCモジュールに開講する科目で、休学などの理由で卒業年限を延長した場合の3回目の秋BCモジュールを迎えた学生を対象とする科目であり、経営システム科学研究・I-III、II-IIIを既に履修している学生に対して、指導教員の下で、各自の研究テーマに関連する学習を行う。
OADM214	経営システム科学特別研究・II-I	2	1.0	2	春AB	随時	経営学学位プログラム（博士前期課程）各教員	春ABモジュールに開講する科目で、休学などの理由で卒業年限を延長した場合の4回目の春ABモジュールを迎えた学生を対象とする科目であり、経営システム科学特別研究・I-Iの単位を既に修得している学生に対して、指導教員の下で、各自の研究テーマに関連する学習を行う。
OADM215	経営システム科学特別研究・II-II	2	1.0	2	春秋A	随時	経営学学位プログラム（博士前期課程）各教員	春秋Aモジュールに開講する科目で、休学などの理由で卒業年限を延長した場合の4回目の春秋Aモジュールを迎えた学生を対象とする科目であり、経営システム科学特別研究・I-IIの単位を既に修得している学生に対して、指導教員の下で、各自の研究テーマに関連する学習を行う。
OADM216	経営システム科学特別研究・II-III	2	1.0	2	秋BC	随時	経営学学位プログラム（博士前期課程）各教員	秋BCモジュールに開講する科目で、休学などの理由で卒業年限を延長した場合の4回目の秋BCモジュールを迎えた学生を対象とする科目であり、経営システム科学特別研究・I-IIIの単位を既に修得している学生に対して、指導教員の下で、各自の研究テーマに関連する学習を行う。